国立病院機構　熊本医療センター

診療科

■総合医療センター	総合診療科、血液内科、呼吸器内科、糖尿病・内分泌内科、腎臓内科
■消化器病センター	消化器内科
■心臓血管センター	循環器内科、心臓血管外科
■脳神経センター	脳神経外科、神経内科
■感覚器センター	眼科、耳鼻いんこう科、皮膚科
■画像診断･治療センター	放射線科
■救命救急センター	救急科

■精神科　■小児科　■外科　■整形外科
■リハビリテーション科　■泌尿器科　■産婦人科
■歯科口腔外科　■形成外科　■麻酔科　■病理診断科

- 診療時間　8:30 ～ 17:00
- 受付時間　8:15 ～ 11:00
- 休 診 日　土･日曜日および祝日

急患はいつでも受け付けます

〒860-0008 熊本市二の丸 1-5
TEL　096（353）6501（代表）
FAX　096（325）2519
HP　http://www.nho-kumamoto.jp/

外来治療風景

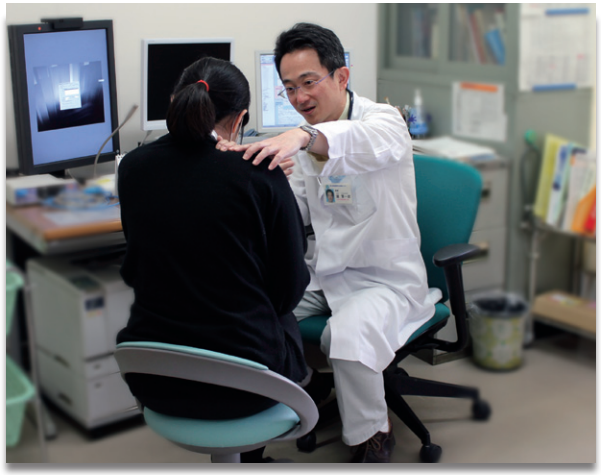
▲星状神経節近傍へのレーザー照射治療風景

外来では頭頸部、手の痛みに対するレーザーを使用した治療も行われます。

麻酔科は、7 人の医師が勤務し、手術麻酔、ICU 管理、ペインクリニック外来（麻酔科外来）などを行っています。手術麻酔、ICU 管理では直接外来の患者様にお会いすることは少ないですが、手術を受ける方、重症患者様を中心に診療にあたっています。ペインクリニック外来では、種々の痛みに対して、各種の神経ブロック・薬物療法などを行っています。薬物療法に関しては、この数年、慢性疼痛に適応のある種々の新薬が発売されましたので、その治療の範疇も広がっています。また、本院はがん診療連携拠点病院であり、癌性疼痛緩和外来も行っています。いろいろな痛みでお困りの方は、一度麻酔科受診をお勧めします。

ペインクリニック診察風景

ペインクリニックでは、種々の痛みに対して、、各種の神経ブロックによる治療・薬物療法などを中心に行います。



▲瀧麻酔科医長の診察風景

熊本医療センターのミニ医療情報誌

くす通信

第134号
2012年4月1日

国立病院機構　熊本医療センター発行

片側顔面痙攣に対するボツリヌス毒素を使用した神経ブロックについて

当院駐車場から望む「桜と熊本城」＝2011.4

「くす（樟）」の由来について

くす（樟）は常緑の広葉樹で、熊本城内に多く見られます。種々の精油成分を含み、良い香りがします。樟脳をはじめ色々な薬用成分が抽出されるなど有用な薬用樹でもあります。

また、くすし（薬師）とは、医師のことを指し、くすしぶみ（薬師書）は医術に関する書物のことを言います。

本誌はこの「くす」にあやかり、健康な生活を送るために情報を提供しております。お気軽にお読み下さい。

片側顔面痙攣に対する ボツリヌス毒素 を使用した 神経ブロック

麻酔科医長
上妻　精二

片側顔面痙攣とは、顔面神経が通常より過敏になることにより、顔の筋肉が発作性、反復性かつ不随意に収縮する疾患です。つまり、片側の顔の筋肉が意図しないのにピクピクする病気です。その原因は、顔面神経が脳から出る部分で、その近くにある延長・蛇行した血管によって圧迫されるために起こることが多いと言われています。

治療法としては、外科的治療法（全身麻酔下に開頭手術を行い、顔面痙攣の主な原因とされる血管と顔面神経の間にいわゆる医療用のスポンジをいれて、顔面神経の圧迫を減らす）と全身のピクツキを押さえる薬（いわゆる抗てんかん薬など）を中心とした薬物療法、ブロック療法が中心です。ブロック療法の一つが、ボツリヌス毒素を使用した神経ブロックです。平成８年に最初に発売されたこの薬は、毒素と言ってもご心配はいりません。ボツリヌス菌により医療用目的に産生されたものであり、一昔前におきた辛子レンコン事件とは無関係ですのでご安心ください。街の美容形成のしわ取りにも使用されており、安全性は高いです。実際の顔面痙攣の治療では、極細の針を使い痙攣が生じている眼の周りや頬の筋肉５～６ヶ所にボツリヌス毒素を注射します。通常、２～３分で注射は終わります。注射されたボツリヌス毒素は、その付近の顔面筋を弛緩させることで顔面痙攣を改善します。ブロックによる治療効果は、通常２～３日以内に現れ、１～２週間後にピークに達し、効果は通常３～４ヶ月間持続します。残念ながらこのブロックの効果は永遠ではありません・・・。その後、ゆっくりとブロックの効果が弱くなり、筋肉の弛緩作用は次第になくなり、また元のように片側の顔の筋肉がピクピクしてきます。ということは、３～４ヶ月毎にブロックを行えば顔面のピクツキを感じることなく生活できる！！ということです。一度ブロックでピクツキがない状態を経験されると、数ヶ月後に多くの方がまたブロックに来られています。

当科では毎週（月）（水）（金）の午前中に外来診療を行っています。平成 18 年以降、延べ約 70 名の患者様にこのブロックを行ってきました。患者様の満足度も比較的高く、今まで特に大きな副作用などは生じていません。お顔の片側がピクピクして、お困りの方は一度麻酔科外来にご相談ください。

片側顔面痙攣の薬について

薬剤師　藤野　祥

片側顔面痙攣は原因不明のため根本的な治療法が確立されていませんが治療薬として、テグレトール®・リボトリール®・リオレサール® 等が効果を示します。しかし、これらの効果は短く大量でしか効き目がみられません。また眠気やだるさ等の副作用が強く現れてしまいます。そこで近年ではボツリヌス毒素 (ボトックス注用®) による治療が行われています。

ボツリヌス毒素

食中毒の原因となるボツリヌス菌が作り出すタンパク質の毒素です。毒素が全身にまわると、全身の筋肉が弛緩します。特に呼吸器の筋肉を弛緩させた場合、呼吸ができなくなり最悪の場合死に至ります。この毒素を改良したものがボトックス注用® というお薬です。

ボトックス注用®は全身作用を持ちません。筋肉に直接局所投与することにより、全身作用を抑えつつ強力な筋弛緩作用を示して顔面の痙攣を抑えます。

ボトックス注用® の安全性

治療後、注射した筋肉の力が弱くなり過ぎて瞼を閉じるのが難しくなったり、痙攣している筋肉以外にも薬の効果が出てしまい表情が少し変わってしまう事などがあります。しかし、これらの副作用は薬の効果が減るにつれて元の状態に戻り副作用はなくなっていきます。

お薬のことでわからないことや気になることがありましたら医師・薬剤師にご相談ください。